



高知市立学校教職員研修で行った研修のうち、「授業づくり」「学級経営」「校内研修」等の内容をお知らせするために「研修便り」を発行いたします。

「教師に求められる実践的能力」

高知市授業改革実践研修(介良小学校)

平成24年6月7日(木)実施

加藤 明 先生(兵庫教育大学大学院教授)

教材研究から授業改善まで

学校とは？

.....

と問われたら、あなたは、何と答えますか？

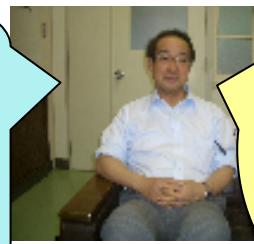


「子どもが賢くなり、自信がつくところではなくてはならない！！」

学校は、分かることやできることが増え、考える力や表現する力がつき、その結果として学ぶ意欲が高まり、その成果の手応えによって、自分自身に自信がつくところ。

そのためには自分で考えて問題解決できる力だけでなく、友だちと協力し合って成し遂げたり、交流し合っても高まるような体験、楽しさを味わわせなければならない。

プロとしての教師は、そのようなバランスの取れた学力を育てる力量と、成果を取り上げて一人ひとりの子どもをほめたり、励まして返すことができなければならない。



加藤明先生

大切なことは『目指す子どもの学びと育ちの姿』の重要性を教師が認識して、教育活動を行うこと！！

↑↓

『目標と指導と評価の一体化』から、教科指導<確かな学力>をとらえること！！

＜そんな学校・学級を作るために



必要な教師の「実践力」とは＞

☆ 教師に求められる実践研究力・実践改善力のポイント ☆

チェック
してみてください。

1 教材研究力

- 教科書の行間を読み取り、教える内容に精通している。(単元観が明確である)
- 教えるにあたっての子どもの実態に精通している。(児童・生徒観が明確である)
- 単元観と児童・生徒観をもとに、単元全体にわたる指導・学習の展開方針を立てることができる。(指導観が明確である)

2 授業設計力

- 教科内容に即して各観点から目標を洗い出し、目標から見た単元展開の見通しを立てることができる。
- 設定した単元の目標の評価規準を設定し、それに基づいた単元末の形成的テストの作成ができる。
- レディネスチェックをし、定着を確かめ、それらを組み込んだ単元計画を作成することができる。

3 授業展開力

- 単元全体の見通しのもとに、1時間1時間の指導を展開できる。
- 発問や効果的な板書、場の設定や教材、教具の準備等によって、目標の実現を図る指導を展開できる。
- 子どもの動きや活動のふくらみを受け止めながら、臨機応変に指導を創造、展開しながら目標の実現を図ることができる。
- 学習の節目、節目で成果を確かめ、それらに応じて教え直しや指導の軌道修正を図りながら指導が展開できる。

4 授業評価力・改善力

- どこをどのように間違えているのか誤答分析をし、それをもとに効果的な補充指導ができている。
- 誤答分析と補充指導の成果をふまえ、次回この単元を指導する際により改善された単元計画を作成している。

5 学級経営力

- どの子にもあまねく温かいまなざしを常に注いでいる。
- 教師とフィーリングの合わない子、死角に入りがちな子の存在に気付き、目をかけ手をかけ言葉をかけている。
- 一人一人の成長や向上を意識的、積極的に取り上げ、ほめて返している。
- 子どもに対し、一方では父性的な部分に立ち課題を指摘し解決や克服させるべく指導し、一方では母性的な部分に立ち支え見守ろうとしている。
- 集団を全体として指導すると同時に、一人一人の多様な個性を認め生かすことに努めている。

目標の実現を図る指導

中学校2年生 英語の授業から

1. 単元名 「Speaking 2 誘う・依頼する・約束する」 (Sunshine English Course 2)
2. 本時の目標
「誘う」「依頼する」「約束する」という働きをする基本的な英語表現を正しく身につけ運用すると共に、それらを使って場面に応じて自己表現することができる。
3. 本時の展開

時間	学 習 活 動
3分	あいさつ
3分	① 副教材「QA100」を使って、ペアで基本文の復習をする。
10分	<p>現在完了など3年生レベルの文も含んでいる。</p> ② 「QA100」からリストアップした16文を使って、尋ねたり、自分のことで答える。 4人が教室の四隅に立って、相手に聞こえるようにしっかりと声を出させている。
3分	③ 既習のSpeaking 1「電話①」の本文を読んで復習し、ワークシート、イオンモールのマップを使ってペアの相手を自分の行きたいところに誘う。
4分	復習にも自己表現活動を取り入れている。
5分	④ 本時のSpeaking 2「誘う・依頼する・約束する」の本文の読みの練習をする。(リピート、ロールプレイ・リーディング)
5分	⑤ ペアでそれぞれ違う種類のワークシートをもとにお互いのフリーの日時を確認し、いろいろな活動に誘って約束をする会話文を練習する。
7分	いろいろな場面を設定し、基本文を習熟させている。
7分	⑥ Speaking 1 とSpeaking 2 を合わせたワークシートを使って、「電話」で「誘う・依頼する・約束する」会話をペアで行う。 (本時のゴールの自己表現活動)
12分	⑦ 先生とALTが Speaking 2 の本文をロールプレイしそれを聞いてノートに英文を書く。正確に書けているかどうかチェックをする。
	事前に家庭学習で本文を繰り返し書く練習をさせている。
3分	本時のまとめ・あいさつ

ポイント1 一継続的な活動一

副教材を継続的に活用して定着を図る。



ポイント2 一スパイラルな学習一

既習事項も活用して、新出事項の定着を図る。

ポイント3 一統合的な活動一

話す活動を書く活動へとつなげ、2つの技能を関連づけて指導している。

ポイント4 一本時のゴールが明確一

生徒の主体的な活動を通して、確実に本時の目標が達成できる授業構成である。

なぜ、授業のテンポがよいのか？

- ・ 活動の時間設定が適切(長すぎず、短すぎず)
- ・ 基本→習熟→応用の自然な流れになっている。
- ・ それぞれの活動において、生徒が「できた」という達成感を味わうことができている。

<ここがすごい！>

- ☆ すべて英語で授業。日本語は全くなし。すべての英語を聞き取るのではなく、必要な情報を聞き取ることをねらいとしている。
- ☆ ペア活動の中でいろいろな場面を設定し、英語を使って疑似体験をさせている。
- ☆ 少人数であっても生徒同士をつなげる学習活動を1年のときから継続して行っている。
- ☆ 先生の熱い思い。「この中学校にきてよかったと思えるように力をつける」「中学2年のうちに英検3級取得を目指す」